

# 四日市市高齢者介護に関する調査結果報告書

## 〔在宅生活改善調査〕

令和2年3月  
四日市市



# 目次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1.調査の目的 .....	1
2.調査の方法 .....	1
3.配布・回収数 .....	1
4.報告書の見方(注意事項) .....	1
<b>II 調査結果</b> .....	<b>2</b>
《在宅生活改善調査 事業所票》 .....	2
問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について .....	2
問2 貴事業所において、過去1年の間に居場所を変更した利用者数(要介護度別)について ..	3
問3 貴事業所において、過去1年の間に居場所を変更した利用者数(行き先別)について .....	4
《在宅生活改善調査 利用者票》 .....	5
問1 対象となる利用者の状況等について .....	5
問2 生活の維持が難しくなっている理由について .....	6
問3 生活の維持が難しくなっている状況を改善するためのサービス利用の変更等について	10

# I 調査の概要

## 1.調査の目的

四日市市では、令和3年度からの次期「介護保険事業計画」および「高齢者福祉計画」の策定作業を進めています。この調査は、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の福祉全般にかかわる各種サービス提供を充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

## 2.調査の方法

- ①調査対象地域 四日市市全域
- ②調査対象者 四日市市内の居宅介護支援事および介護予防支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所に勤務する介護支援専門員
- ③調査期間 令和元年12月(調査基準日は令和元年12月1日)
- ④調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

## 3.配布・回収数

	配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
事業所票	82	59	72.0%	—	59	72.0%
利用者票	297	178	59.9%	—	178	59.9%

## 4.報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中のN数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

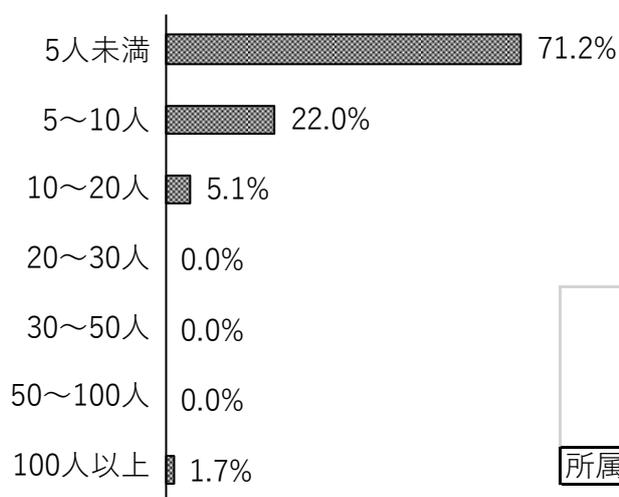
## II 調査結果

### 《在宅生活改善調査 事業所票》

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。

#### ①所属するケアマネジャーの人数【N=59】

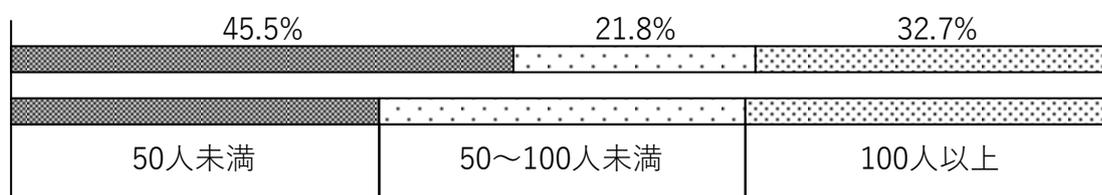
回答のあった事業所におけるケアマネジャー数は、「5人未満」が71.2%となっており、平均すると1事業所あたり6.1人となっています。



	件数	合計人数
所属するケアマネジャーの人数	59	357

#### ②「自宅等(③を除く)」にお住まいの利用者数【N=55】

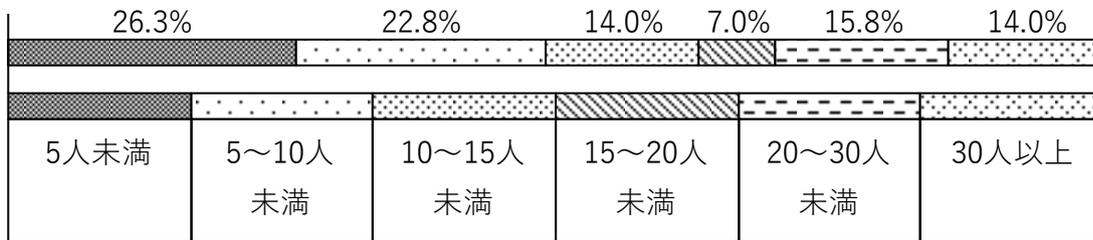
自宅等に住む利用者数は「50人未満」が45.5%と高いものの、「100人以上」も32.7%に上り、平均すると1事業所あたり106.7人となっています。



	件数	合計人数
「自宅等(③を除く)」にお住まいの利用者数	55	5867

## ③ 「サ高住」「住宅型有料」「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数【N=57】

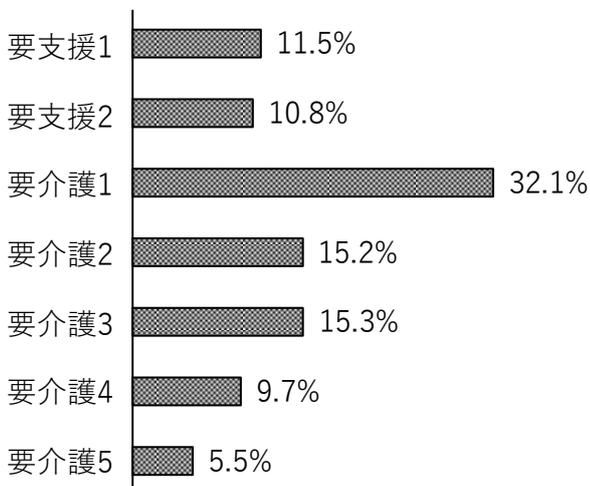
サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）、住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホームに住む利用者数は「5人未満」が26.3%、「5～10人未満」が22.8%であり、10人未満が約半数を占め、平均すると1事業所あたり14.6人となっています。



	件数	合計人数
「サ高住」「住宅型有料」「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数	57	831

問2 貴事業所において、過去1年の間(平成30年12月1日～令和元年11月30日)に「自宅等(※サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く)から、居場所を変更した利用者数(要介護度別)」をご記入ください。【N=59】

過去1年の間に自宅等から居場所を変更した利用者数は1,133人、1事業所あたり19.2人であり、現在の利用者数(自宅に住む利用者数)との比率をみると18.0%に相当します。内訳は「要介護1」が32.1%と最も高くなっています。



	件数	合計人数
要支援1	24	130
要支援2	25	122
要介護1	37	364
要介護2	37	172
要介護3	33	173
要介護4	30	110
要介護5	29	62
合計	59	1133

問3 貴事業所において、過去1年の間(平成30年12月1日～令和元年11月30日)に「自宅等(※サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く)から居場所を変更した利用者数(行き先別)」をご記入ください。【N=59】

過去1年の間に自宅等から居場所を変更した利用者の行き先については、回答があったうちの約3分の1が「死亡」となっていますが、それ以外では四日市市内への移動が大半(93.8%)であり、市外へは6.2%となっています。市内への移動について施設別では、「サービス付き高齢者向け住宅」が34.0%と最も高く、次いで「特別養護老人ホーム」が20.7%、「住宅型有料老人ホーム」が12.1%と続いています。

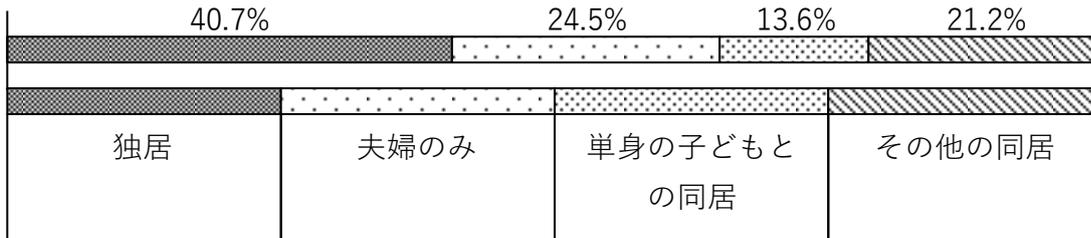
		件数	合計人数	比率(%)
四日市市内	①兄弟・子ども・親戚等の家	15	13	3.1
	②住宅型有料老人ホーム	21	51	12.1
	③軽費老人ホーム(特定施設除く)	11	10	2.4
	④サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	39	143	34.0
	⑤グループホーム	15	15	3.6
	⑥特定施設	10	2	0.5
	⑦地域密着型特定施設			
	⑧介護老人保健施設	18	30	7.1
	⑨療養型・介護医療院	13	11	2.6
	⑩特別養護老人ホーム	19	87	20.7
	⑪地域密着型特別養護老人ホーム	10	10	2.4
	⑫その他	13	23	5.5
四日市市外	①兄弟・子ども・親戚等の家	10	3	0.7
	②住宅型有料老人ホーム	11	4	1.0
	③軽費老人ホーム(特定施設除く)	8	1	0.2
	④サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	8	3	0.7
	⑤グループホーム	8	3	0.7
	⑥特定施設	9	2	0.5
	⑦地域密着型特定施設	7	0	0.0
	⑧介護老人保健施設	8	3	0.7
	⑨療養型・介護医療院	7	0	0.0
	⑩特別養護老人ホーム	6	1	0.2
	⑪地域密着型特別養護老人ホーム	6	0	0.0
	⑫その他	11	6	1.4
	⑬行き先を把握していない	9	0	0.0
	⑭死亡(※搬送先での死亡を含む)	24	217	
	①～⑬合計	59	421	100

## 《在宅生活改善調査 利用者票》

問1 対象となる利用者の状況等についてお伺いします。(それぞれ○はひとつ)

### 1-(1) 世帯類型【N=486】

現在のサービス利用では、生活が難しくなっている利用者（以下、「対象者」と言います。）について、世帯類型では「同居」が40.7%と高く、「夫婦のみ」も24.5%に上り、高齢者世帯は合わせて65.2%に上ります。一方、子ども等との「同居」は合わせて34.8%となっています。



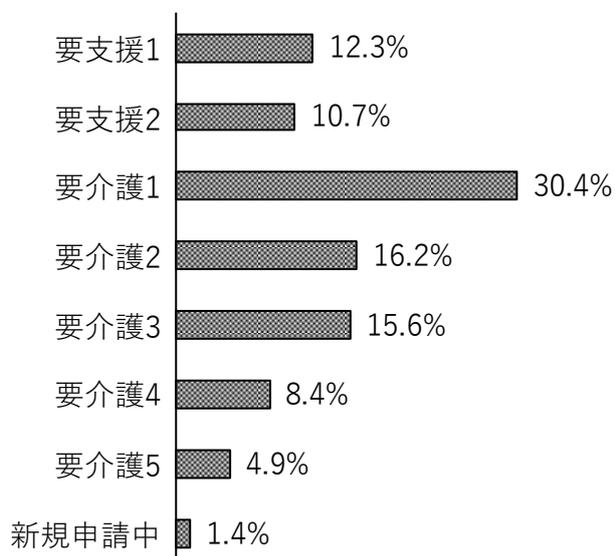
### 1-(2) 現在の居所【N=488】

対象者の現在の居所は「自宅等（持ち家）」が71.5%を占め、次いで「自宅等（借家）」が17.4%となっています。「サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）」は6.4%、「住宅型有料老人ホーム」は3.9%という状況です。



### 1-(3) 要支援・要介護度【N=487】

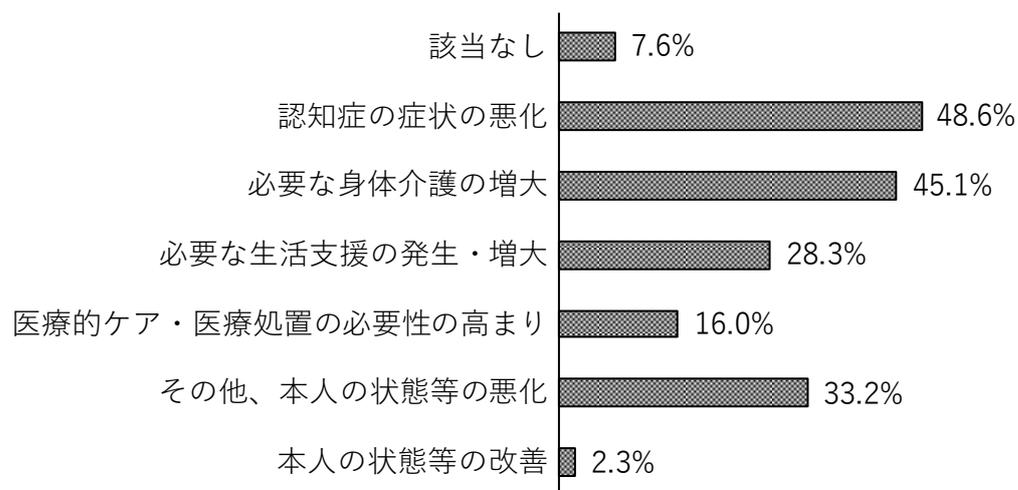
対象者の要介護度については、「要介護1」が30.4%で最も高くなっています。



問2 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由についてお伺いします。

2-(1) 本人の状態等に属する理由についてお答えください。(当てはまるものすべてに○)【N=488】

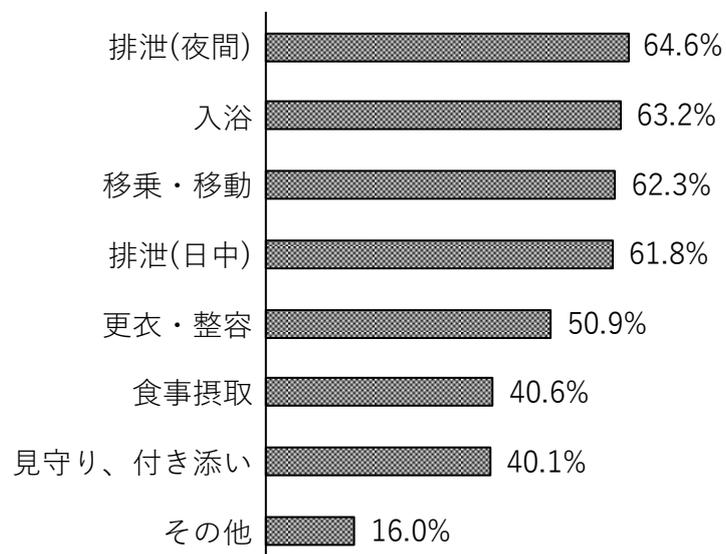
対象者の生活維持が難しくなっている理由について、本人の状態等に属する理由としては、「該当なし」は7.6%とわずかであり、何らかの本人の状態に起因することがあると言えます。そのうち「認知症の症状の悪化」が48.6%と最も高く、「必要な身体介護の増大」が45.1%で続きます。一方、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」は相対的に低くなっています。



※2-(1)で「必要な身体介護の増大」を選んだ場合に回答

2-(1)-① 理由となる、具体的な「身体介護」をお答えください。(当てはまるものすべてに○)【N=212】

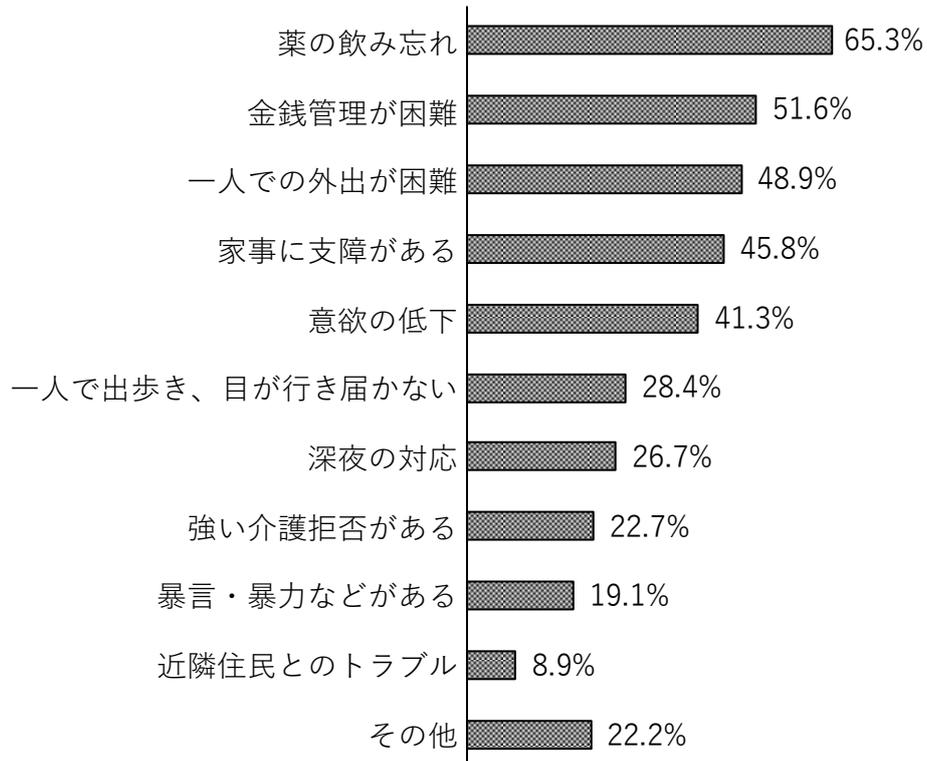
身体介護の具体的内容をみると、「排泄(夜間)」、「入浴」、「移乗・移動」、「排泄(日中)」がいずれも60%以上と高く、「更衣・整容」が50.9%に上り、「食事摂取」と「見守り、付き添い」も約40%と、必要な身体介護が全般に及んでいると言えます。



## ※2-(1)で「認知症の症状の悪化」を選んだ場合に回答

2-(1)-② 理由となる、具体的な「認知症の症状」をお答えください。（当てはまるものすべてに○）【N=225】

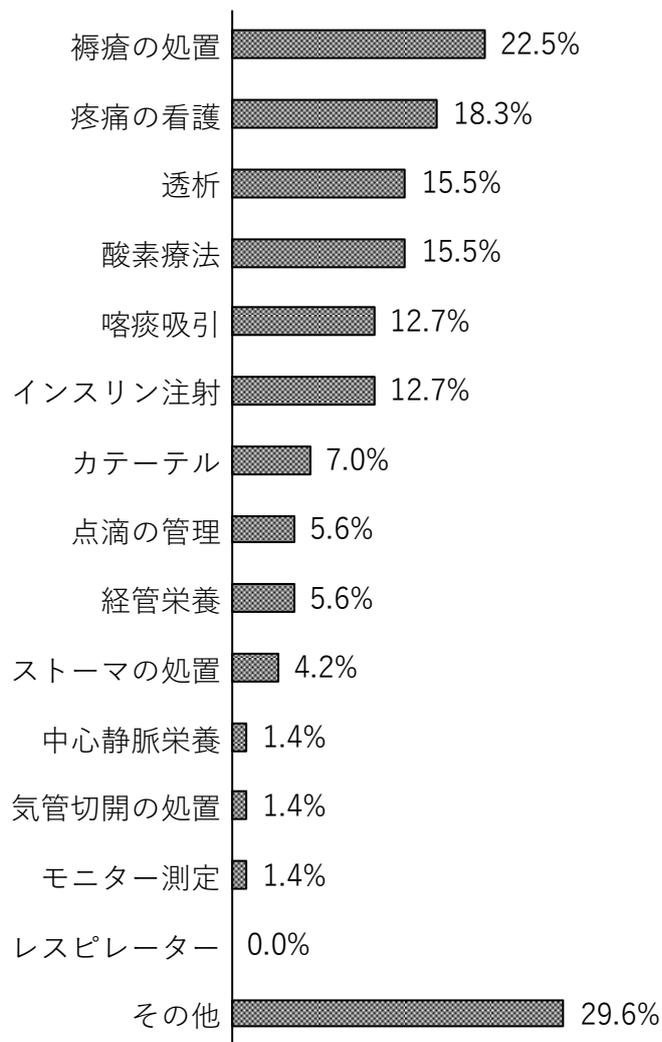
認知症状の具体的内容を見ると、「薬の飲み忘れ」が65.3%と最も高く、次いで「金銭管理が困難」が51.6%となっています。また、「一人での外出が困難」、「家事に支障がある」、「意欲の低下」もそれぞれ40%を超えて高くなっています。



※2-(1)で「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」を選んだ場合に回答

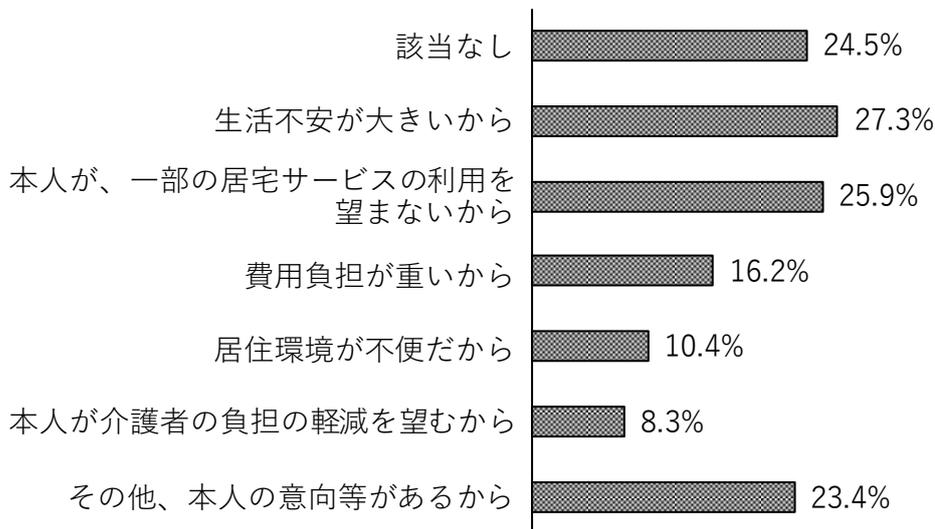
2-(1)-③ 理由となる、具体的な「医療的ケア」「医療処置」をお答えください。(当てはまるものすべてに○)【N=71】

医療的ケア・医療処置の具体的内容をみると、「褥瘡の処置」が22.5%と最も高く、「疼痛の看護」が18.3%で続きますが、「その他」が29.6%と高いことから、必要な医療的ケア・医療処置は多岐にわたるものと考えられます。



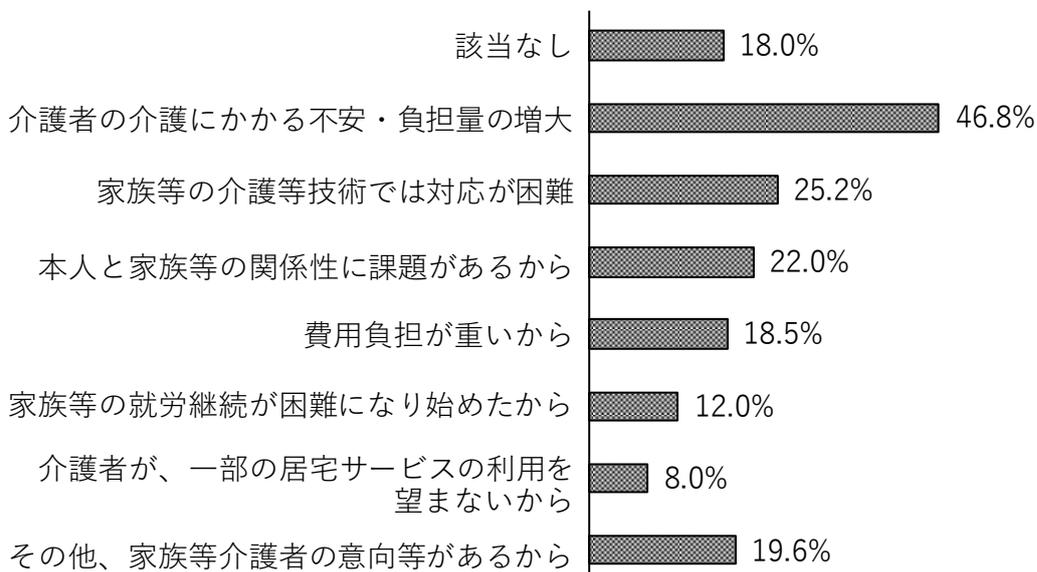
2-(2) 主に本人の意向等に属する理由についてお答えください。（当てはまるものすべてに○）【N=444】

対象者の生活維持が難しくなっている理由について、本人の意向等に属する理由としては、「該当なし」が24.5%となっており、本人の状態、家族介護者の意向・負担に比べると要因としては相対的に小さいことがうかがえます。理由については、「生活不安が大きいから」が27.3%であり、「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が25.9%で続いています。



2-(3) 主に家族介護者の意向・負担等に属する理由についてお答えください。（当てはまるものすべてに○）【N=449】

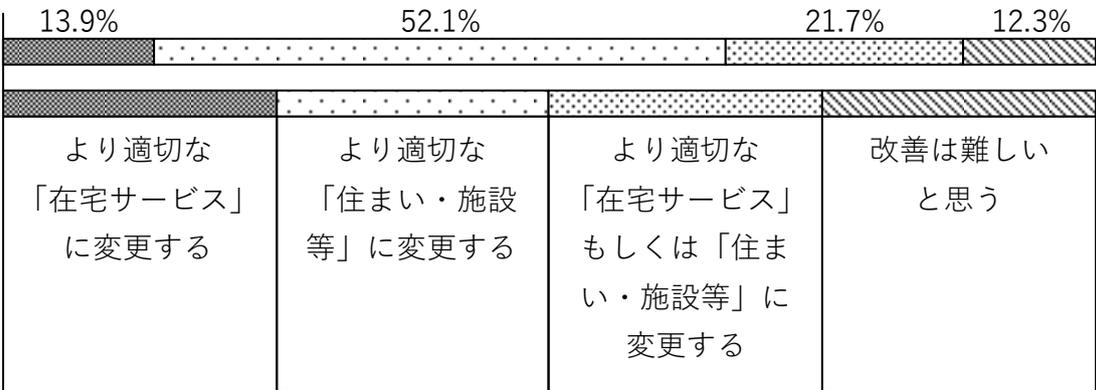
対象者の生活維持が難しくなっている理由について、家族介護者の意向・負担等に属する理由としては、「該当なし」が18.0%と本人の意向等に比べてやや低く、家族介護者の負担に関することが要因になっていることがうかがえます。そのうち、「介護者の介護にかかる不安・負担量の増大」が46.8%と最も高くなっています。



問3「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況を改善するためのサービス利用の変更等についてお伺いします。

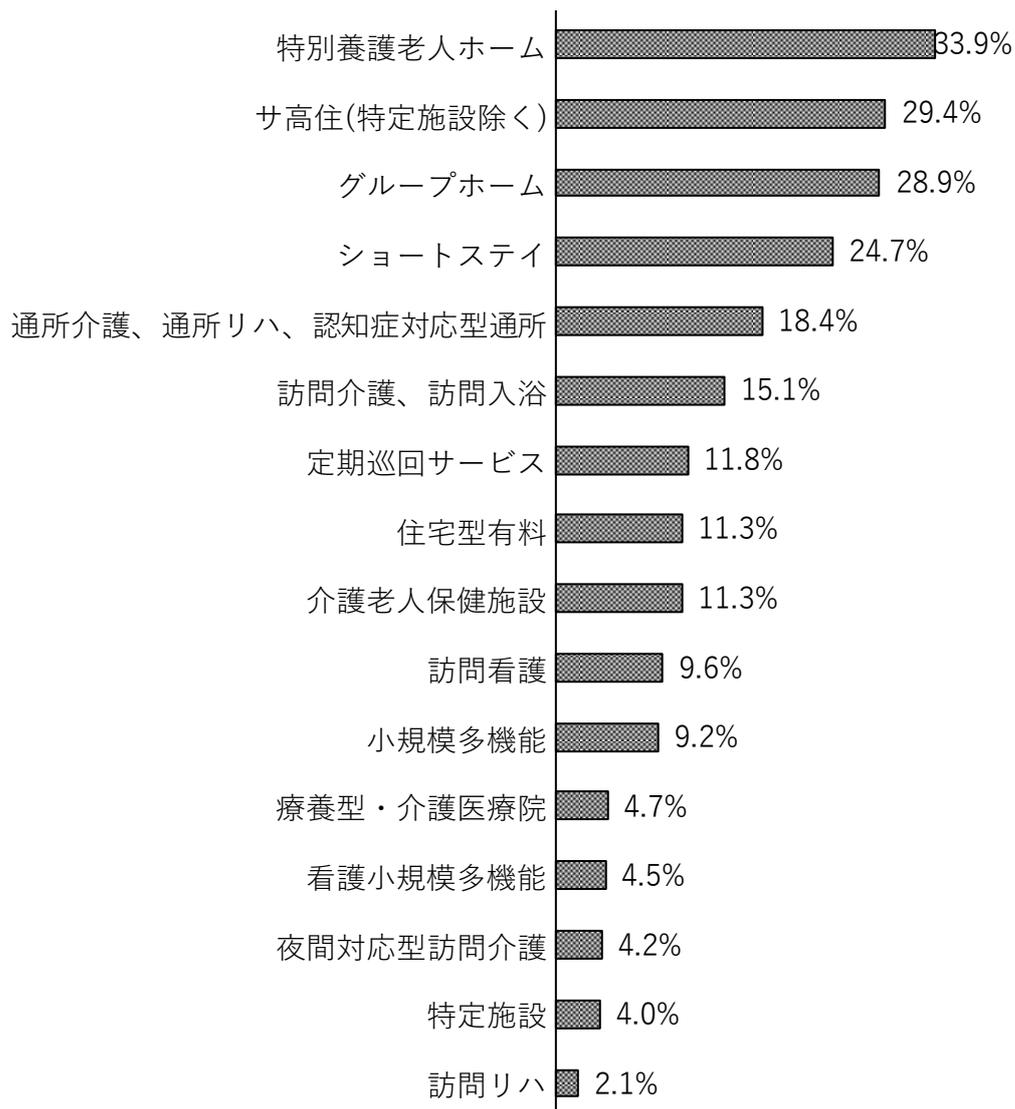
3-(1) 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。(○はひとつ)【N=438】

対象者の状況の改善に向けては、「より適切な住まい・施設等に変更する」が52.1%と最も多く、半数以上を占めます。一方、「より適切な在宅サービスに変更する」は13.9%であり、生活の維持が難しくなっている人に対しては住まい・施設等への入所・入居が有効であると考えられていると言えます。



3-(2) 3-(1)で選択したサービス利用の変更について、本来であればより適切と思われる、具体的なサービスをお答えください。(当てはまるものすべてに○)  
【N=425】

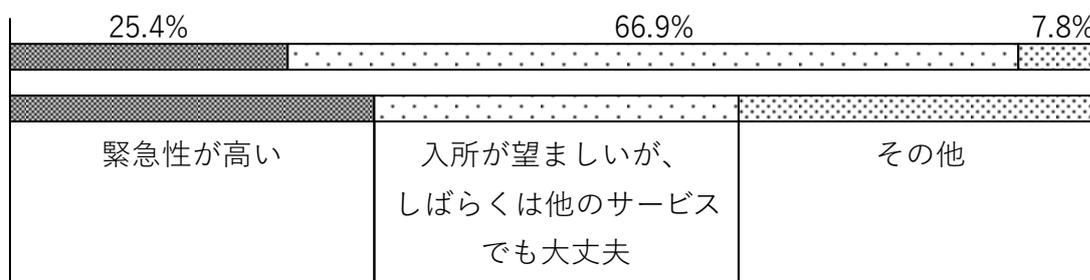
適切と思われる具体的サービスは、「特別養護老人ホーム」が33.9%と最も高く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅」が29.4%、「グループホーム」が28.9%、「ショートステイ」が24.7%で続き、上位を施設・居住系サービス、住まいが占めています。一方、地域密着型サービスである「小規模多機能型居宅介護」や「看護小規模多機能型居宅介護」、「夜間対応型訪問介護」は相対的に低くなっています。



※3-(2)で「住まい・施設等」を選んだ場合に回答

3-(2)-① 利用者の入所・入居の緊急度をお答えください。(○はひとつ)【N=335】

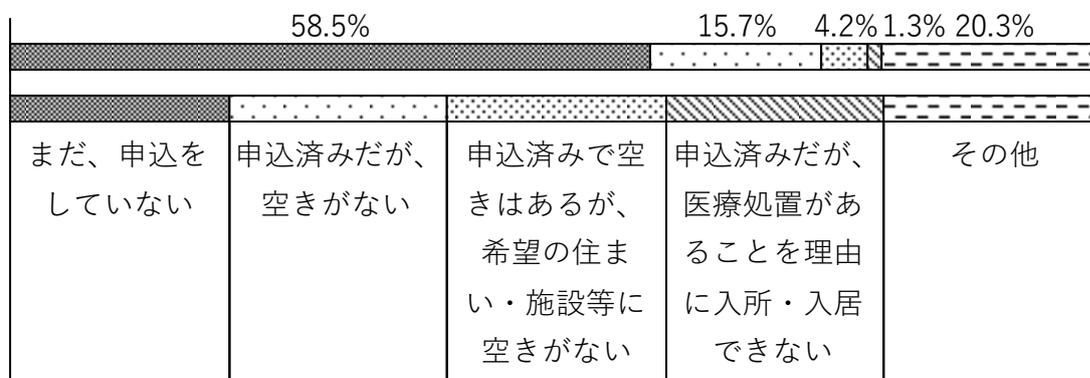
住まい・施設等を選んだ対象者の入所・入居の緊急度については、「緊急性が高い」が25.4%となっていますが、「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」が66.9%と高くなっています。



※3-(2)で「住まい・施設等」の「特養」以外を選んだ場合に回答

3-(2)-② 入所・入居できていない理由をお答えください。(○はひとつ)【N=236】

対象者が特別養護老人ホーム以外に入所・入居できていない理由については、「まだ、申込をしていない」が58.5%を占めて高くなっていますが、「申込済みだが、空きがない」が15.7%、「申込済みで空きはあるが、希望の住まい・施設等に空きがない」が4.2%となっており、約20%の人が待機の状態にあることがうかがえます。



## ※3-(2)で「住まい・施設等」の「特養」を選んだ場合に回答

3-(2)-③ 入所できていない理由をお答えください。(○はひとつ)【N=133】

対象者が特別養護老人ホームに入所できていない理由については、「まだ、申込をしていない」が53.4%を占めて高くなっていますが、「申込済みだが、空きがない」が21.8%、「申込済みで空きはあるが、希望の施設に空きがない」が3.8%となっており、約25%の人が待機の状態にあることがうかがえます。

